

平成29年度市政懇談会 開催結果概要

- 日時 平成29年7月6日（木）午後3時～
- 会場 阿寒湖まりむ館
- 出席者 19人

〔市長より説明（別途資料参照）〕

○将来を見通したまちづくり

- ・ 釧路市の台所事情
- ・ 釧路市の人口推移
- ・ 雇用を生み出す産業の強化
- ・ 子どもを生み育てたいという希望をかなえる
- ・ 「世界一級の観光地」を目指して
- ・ 阿寒湖アイヌ施策の推進
- ・ 安心な暮らしをつくる
- ・ 人口減少に対応した地域をつくる
- ・ 釧路市まちづくり基本構想等の策定について

〔事前調査による地域からのご意見等〕

■小学校跡地の活用について

小学校跡地に木を植え、森にするようだと、今でも毎年のように熊の目撃情報があり、その度に保護者が送り迎えをしている。跡地の活用を考えてほしい。

また阿寒湖温泉地域には、公共の遊具施設が無いに等しい。中標津の「夢の森公園」のようなものがほしい。

【阿寒町行政センター長】

阿寒湖温泉地区の義務教育学校につきましては、平成34年度の開校を目指し、今年度から設計業務を進めております。小学校の校舎は耐震強度を有しておりますが、体育館は耐震補強等が必要となります。また、取り壊すにしても実施は34年度以降が見込まれております。阿寒湖小学校跡地の今後の利活用につきましては、阿寒湖温泉地区における地域振興策として検討をしていくものと受け止めております。地域住民の皆様と連携を図りながら今後のあり方について協議していく必要があると考えています。

小学校跡地利用の中での公共の遊具施設整備についてです。小学校跡地の利用としては、阿寒湖温泉地区の自然環境を生かし、現在進めております観光立国ショーケース、国立公園満喫プロジェクト等を踏まえ、関係部署と協議しながら決定していくこととなります。公共の遊具施設が少ないということですが、現在阿寒湖温泉地区には、ふれあい公園として「阿寒湖畔ふれあい広場」、「常盤木小公園」、「前田公園」の3つの公園があります。その中で遊具施設のある公園は、マリモ幼稚園に隣接する「阿寒湖畔ふれあい広場」の1公園となっています。ここには2連式のブランコとシーソーがあります。また、ふれあい公

園ではありませんが、まりむ館前の広場には、まりむ館建設当時に「児童公園整備期成会」様より寄附いただきました、木製のコンビネーション遊具や滑り台・2連のブランコがあります。

阿寒湖温泉地区は自然に恵まれた環境を生かし、自然にふれあう公園を考えており、小学校跡地付近には「阿寒湖畔ふれあい広場」がありますので、この公園をご利用いただきたいと考えております。

中標津の「ゆめの森公園」のような公園が欲しいと言うことですが、この公園は道立の公園で総合的な都市公園です。阿寒湖温泉地区は、国立公園集団施設地区に指定されていることから、都市公園整備を実施することが叶わないことになっていきますので、ご理解いただきたいと思います。

■歩道の整備について

中学生は自転車通学をしており、小学生もクラブ活動時には自転車を使っている。歩道の整備をしてほしい。

【都市整備部長】

阿寒湖小学校や阿寒湖中学校へ向かう道路は、児童等の通学路として非常に重要な路線であることは理解しております。

歩道の現状として、凍上の影響と思われる舗装のひび割れや縁石の劣化による破損、樹木の枝葉の飛び出し等があることは確認しております。しかし、全面的な歩道の整備となると経費的に高額となることから、現在は、現地を確認し危険な箇所を随時補修することで対応しております。

今後も、安全な通行を確保するため、しっかりと維持管理に努めてまいりたいと考えていますので、ご理解をいただきたい。

■若草団地の整備について

中学校に隣接している若草団地は、人口も減少し、20年以上も取り壊されていない公営住宅が、子供たちの通学路になっている。また街灯の暗さなどの苦情も出ている。

【都市整備部長】

まりも（若草）団地の整備計画についてです。釧路市全体の公営住宅の改修等を計画的に行うため、平成25年3月に「釧路市公営住宅等長寿命化計画」を策定しており、まりも団地についてもこの計画に位置づけられています。現在、この計画につきましては、昨年度と今年度の2カ年で改定をしており、昨年度は、資料やデータ収集及びアンケート調査等を行っております。今年度は、収集した基礎資料を基に分析・解析・取りまとめ作業を行っているところです。

まりも団地につきましては、市道側の政策空き家となっております4棟20戸の解体時期や、老朽化が進んでいる団地全体の入居状況などを考慮し、適正な管理戸数の見直しを含め、平成29年度内に策定します「釧路市住生活基本計画」及び「釧路市公営住宅等長寿命化計画」の中で検討しているところです。

若草地区の街路灯の暗さについてですが、道路の照明等については、ランプ

の球切れなどを確認し、発見し次第、取替・修理を行っております。街路灯が暗いと言うことですが、道路の照明等以外にも防犯灯や、建物のための照明灯がありますので、現地の状況を随時確認し、関係部署とも連携しながら対応していきたいと考えております。

■住宅対策について

阿寒湖温泉に仕事に来て、すぐに生活できる住宅がない。公営住宅の活用を考えていただきたい。

【都市整備部長】

阿寒湖温泉地区は国立公園内でもあり、民間賃貸住宅物件が極めて少ないという特殊性があります。また、公営住宅は国の補助を受け建設されるものから、収入制限等様々な制限のもとに管理運営しております。

現在釧路市では、住宅政策の推進を図るための基本方針であります「釧路市住生活基本計画」や、公営住宅等に関する活用方針、供給方針を定める「釧路市公営住宅等長寿命化計画」を改訂中でありますので、阿寒湖温泉地区についても、これらの計画の中でしっかりと議論していきたいと考えております。

■地域ぐるみでのマリモ研究について

世界的に希少種のみりもの研究・再生事業も進んできており、地域ぐるみで支えていかななくてはならないことだと思う。みりも研究を子供から大人まで携わることができる地域づくりが必要だと思う。

【マリモ研究室長】

教育委員会が長期にわたって実施してきたマリモ保護研究事業の成果を基に、平成21年から釧路市内の小中高生によるマリモ育成試験や、外来生物・ウチダザリガニの影響調査に取り組んできたところです。

さらに、そこで培われたノウハウを用いて、地域住民と観光客が共に参加するマリモ育成プログラムの構築を目指し、現在もマリモ展示観察センターなどで活動を継続しているところです。しかしながら、まだまだ試行的な段階に留まっており、地域住民がマリモの研究や保護活動の主体・担い手となる活動にどうやってステップアップさせて行くかが、課題になっていると認識しております。

こうした課題の解決を目指し、蝦名市長が会長を務めた「阿寒湖のマリモ保全対策協議会」では、平成24年に策定した「マリモ保護管理計画」の中で、マリモの普及啓発に関わる優先度の高い対策として、①マリモの利活用方法の適正化、②学習情報や教材の整備と利用促進、③フィールドにおける学習機会の拡充、④指導者や人材の養成を含めた指導体制の整備の、4つを掲げております。

また、去る5月25日、「阿寒湖のマリモ保全対策協議会」の後継組織である「阿寒湖のマリモ保全推進委員会」の年次総会におきまして、現在、地域全体の課題となっている「阿寒国立公園満喫プロジェクト」の主要事業として想

定されている「マリモ観察ガイドツアー」について、環境省釧路自然環境事務所から「マリモの適切な保全・活用のあり方」に関する検討の協力要請がありました。さらに、地域の女性団体である「まりも倶楽部」から「地元の小中学校の課外活動の一環としてマリモ研究クラブのような組織を設けてはどうか」との提言がございました。「阿寒湖のマリモ保全推進委員会」といたしましては、こうした要請に応えるべく、プロジェクトチームを編成し、「マリモ保護管理計画」の中で掲げられた先の4つの対策を包括的に実現する方向で、検討・協議することにいたしております。

この検討・協議では、同じく「マリモ保護管理計画」で大きな目標として掲げられている「過去にマリモ集団が失われた阿寒湖西部のシュリコマベツ湾における環境修復とマリモ集団の復元再生に向けた調査研究の推進」についても取り上げられる予定となっております。こうした枠組みの中で、地域の皆様のご支援・ご協力をいただきながら、郷土の貴重な宝であるマリモの研究や保護活動に、子どもから大人までが広く参加できる体制ならびに方策の具体化を図ってまいりたいと考えております。

●意見交換

【参加者A】

町内会と連携した避難支援についてです。私どもの町内会は7年前から協働会を立ち上げています。今年の春にこの話を聞いたのですが、避難の行動が津波と大雨のことだけです。ここはそれよりも噴火のことがあります。町内会で2年に1回、避難訓練をやっていますが、そういう運動をするとき、噴火に対する行動やハザードマップ的な資料がいつも足りません。噴火の時、上から物が落ちてくるのに、どうするのだろうかと思っています。阿寒町行政センターの保健福祉課からお話があり、支援者の名簿を作って出していますが、自分の足で動けない人を支援する名簿を作って、計画を出すことにいろいろな問題があります。

【市長】

昔は要支援者の名簿が個人情報ということで、町内会でも取り扱いができませんでした。そこで、協働会のような会を作ったときに、初めてそこに名簿が出せるという形になりました。その後、東日本大震災を受け、自助・共助・公助を進めていくため、町内会の中で助け合いをしていこうと、国から避難する要支援の方々の名簿を作るようにという指示がきたところで、現在、要支援者の名簿作成を行っています。まずは、要支援者を把握するものでございます。次に、津波の時にどうやって避難していくのかというところまでは、まだ至っていないところです。協働会等は10カ所でスタートしており、そこではいろいろな訓練をやっているところで、会を作ったあと、どういう形で進めていくのかなどのフォローアップも含めて、いろいろと相談しながら進めていく形になると考えています。

【参加者B】

国立公園満喫プロジェクトや観光立国ショーケースの関係もあり、多くの方が家族で住むために阿寒湖温泉に来ていますが、住宅が足りません。住宅問題について、いろいろ対応を考えているとのことですが、その可能性はあるのでしょうか。

【市長】

住宅は何とかなければならないという思いでいます。ただ、既存の枠組みではできない状況ですので、例えば市営住宅を活用するとかを含め、こういった形でならできるのかを相談しながら進めているところです。観光立国ショーケース、国立公園満喫プロジェクトの成果をあげるため、いろいろなことに取り組みながら進めており、そのために、人というのはどうしても必要な部分があります。今月中にいろいろなところと相談してきますので、こういった形になるのか報告しながら進めていきたいと考えています。

通学路については、大変ハードルが高いものであります。できることなら阿寒湖温泉では、観光地としての無電柱化を進めていければと思っているところですが、大きな資金が必要となります。また、単純に電線無くすということではなくて、道路のバリアフリー化も進めていければと考えています。そうすると、温泉のパイプがたくさん埋まっていて、古いものは図面が無いというところもあり、こういったところもどうやって対応していこうかなど、なかなか大変なところです。国の社会資本整備総合交付金事業の重点がまさしく通学路です。子どもたちの安全を確保するために、通学路にはその交付金をしっかり充てていきたいと思いますという仕組みになっていますけど、計画を出しても実際に配分されるときには減額になる実態もあります。ただ、観光地として、合わせて学校までの通学路を確保するため、そういったことを組み合わせながらできないだろうか、関係のところと相談しながら進めています。時期の目処は全然つかないのですが、一生懸命、何か良い方法はないか考えており、できることなら観光立国ショーケースや国立公園満喫プロジェクトを活用する中で、さまざまな課題を解決できるように向かっていきたいという思いで進めているところです。目処がついていないということで、先ほどのような答弁になっていることをご理解いただきたいと思います。

【参加者C】

観光地ということもあり、子どもたちが自転車に乗るところがありません。ゆめの森公園のような大規模な公園でなくて、小公園でいいのです。自転車を押してそこまで行って、子どもたちが乗って遊べるところを、小中学校の整備や小学校跡地の活用などの中で、この環境整備を組み込んでいただけないかなと思います。大きいスケールでなくて、小さなスケールで子どもたちの遊べる環境、その中で遊具は少なくてもいいのです。また、例えば、外国人の子どもたちが散歩しているときに、子どもたちが遊んでいると、一緒に遊ぼうという環境が作れるのではないかと思います。それと若草団地についてです。観光客は

若草団地の方まで歩いて行っています。荒れたものを見ることになり、観光地としてはマイナスだと思うので、早めに整備をお願いします。

【都市整備部長】

都市公園となると非常に難しくなりますけども、小公園や芝生公園のようなもので、自転車に乗ったり安全に遊べたりするところが、小学校跡地の利用などでできるかどうか、阿寒町行政センターとも連携しながら、まずは勉強させていただきたいと思います。

【参加者D】

阿寒湖温泉地区の義務教育学校についてです。本当は街から近いところが一番良いのですが、若草地区の一番外れですから、一番遠いところに行かなければならないという状況です。建てるのであれば、敷地が必要ということで、小学校の跡地については無理だと。それで、中学校の一番端ということ。若草地区は住民が少なくなって、20年近く空き家が壊されない状況で、その前が通学路になっています。これからは全員がその前を通らなければならないので、可能であれば33年までに歩道の整備と廃墟の整備を、教育委員会にもお願いしています。可能な限り開校するまでに何とかしていただきたい。

それと、阿寒湖温泉地区の道路についてです。外国人観光客が増えて旅行カバンを引いて歩いており、すごい音がしています。中には車輪が壊れてしまうお客さんもいるというくらい、歩道のデコボコがひどい状態です。電柱の地中化もそうですけど、可能な限り一緒に道路の整備もやっていただきたいと思います。

【市長】

小学校の活用など、皆様にはさまざまな議論をいただいております、感謝するところでございます。通学路は社会資本整備総合交付金事業の重点であって、しっかり整備していこうとしていますので、それを活用しながら進めていきたいと考えています。子どもたちの安全安心のため、釧路地域では子どもたちがどこを通るのか、そこは安全なのかということで、各学校単位で地域の方々からの協力をいただきながら安全安心マップを作って、危険なところを通るのは止めましょうということを行っています。ただ、ご意見の内容はそこではなかなかできないものでありますので、しっかりその対応を行うことが必要と思っています。地域の皆さんからご意見をいただきながら、子どもの安全安心については、しっかりと対応していきたいと考えています。

若草のまりも団地については、住宅対策のことも踏まえた中で、今年中にさまざまなことを整理していかなくてはいけないという状況と考えております。それぐらいまでには、こういった方向性ができるのかを、この地域に示されるように取り組んでいきたいと考えていますので、もう若干のお時間をいただければと思います。

【参加者E】

観光立国ショーケース、国立公園満喫プロジェクトでご支援いただきまして、本当に感謝しております。特に、今回、NPO法人阿寒観光協会まちづくり推進機構にはJTBさんと電通さんから2名来ていただいて、まさに推進力として大活躍していただいております。ただ、観光立国ショーケースと満喫プロジェクトの業務が増えてきておりまして、そんな中でしっかりと推進していくための体制強化というのがDMOの中でも、今後の課題と認識しています。目標に向けてしっかりとやっていくべく、また、何とか強化してやっていきたいと思っておりますのでよろしくご協力をお願いいたします。

【参加者F】

阿寒町は釧路市と合併する前まで、阿寒湖温泉の観光客の入込みについて、日帰りが何人だとか宿泊が何人だと、3カ月に1回くらい、3カ月前くらいのものが出ていました。今は年次集計のものはもらえるのですが、もう少しタイムリーに、もちろん阿寒湖だけのもので結構なので、3カ月に1回とか、2カ月に1回、出していただけないでしょうか。自分たちなりに傾向等をつかむためには、1年遅れではではなかなか分からないものですから、できるのであればありがたいと思います。

それと、小学校の前で熊が出て、今日も集団登校となっているのですが、熊が出るというのは、観光地として安全のために、熊に対しては保護なのか、駆除なのか、基本的な考え方があったら教えていただきたい。

【観光振興担当部長】

入込み客数の情報提供について、市と阿寒観光協会まちづくり推進機構で、今後どのような形で提供するのが良いのか協議をした後、四半期毎ぐらいを目標にできないか、体制を含めて検討させていただきたい。

【阿寒観光振興課長】

過去には、主要営業旅館さんのご協力をいただきながら、四半期毎にその分だけを取りまとめて、阿寒湖温泉の傾向としてお示ししていましたが、これから先、阿寒観光協会まちづくり推進機構と協議しながら出していきたいと思います。毎月の集計となりますと、旅館さんの負担も含めていろいろと協議をしていかなければならないものですから、旅館さんも含めてさまざまな調整をさせていただきたいと思います。

【阿寒町行政センター長】

昨日、熊が小学校の目の前に出たということで、皆さんにご協力をいただきましてありがとうございます。基本的なルールは、阿寒湖温泉の若草地区の砂利道のところと第1駐車場の間、それと温泉街の周りに出た場合については駆除になります。山側については、追い払いということになります。学校の目の前に出た場合には、もちろん駆除という形を取るものですが、住民の方の安全を第一に、関係部署と連携して注意喚起の広報活動をしっかりやらせていただきます。熊が今どこにいるということで、線引きの中から駆除できるものは

駆除の対応を取る、追い払いのところは追い払いという形が、現在できる対応です。